

慶心比丘尼蘇生譚関係史料 一括(8点)

慶心比丘尼蘇生譚関係史料

けいしんびくにそせいたんかんけいしりょう

紙本墨書よみがえりの草紙 1 巻、紙本彩色長宝寺縁起 1 巻、紙本墨書逆修講縁起 1 巻、閻魔王の宝印 1 個、青蜘蛛の舍利 1 基、紙本墨書よみがえりの草紙抜粋 1 巻、紙本墨書ゑんま王の御はん并蜘蛛舎利の縁起 1 巻、紙本墨書閻魔王肉筆の花押 1 幅

分野

有形民俗文化財

所有者

宗教法人 長宝寺

所在地

大阪市平野区平野本町 3

紹介



紙本彩色長宝寺縁起

長宝寺は閻魔信仰が盛んなことで知られているが、中世にはすでに厚い信仰の拠点となっていた。長宝寺の慶心という比丘尼が頓死(とんし)し、閻魔王のとりはからいにより3日で蘇生、逆修供養(ぎゃくしゅくよう)の必要を人々に説いた。後に慶心が読経中に、光る青蜘蛛があらわれるという奇瑞があった、という慶心比丘尼蘇生譚を記した、永正10年(1513)の年紀を持つ『よみがえりの草紙』や、元文2年(1737)に制作された絵巻物『長宝寺縁起』などの史料を伝えている。中世から現在に至るまで続く、広く厚い長宝寺の閻魔信仰を物語る史料となっている。

用語解説

比丘尼(びくに) 仏教における女性の出家修行者。仏教の尼僧

逆修供養(ぎゃくしゅくよう) 生前にあらかじめ死後の菩提を祈願して仏事を修すること